裾野麗峰山の会山行報告書

文・写真　後藤隆徳

山行番　　ＮＯ．１５７６
日　時　　２０１３．１２．２８（土）～３０（月）
山　域　　南 ALPS・甲斐駒ヶ岳（２９６７ｍ）＝戸台～北沢峠～甲斐駒～黒戸尾根～竹宇
参加者　　後藤隆徳（６６）、諏訪部豊（５９）、掛橋智美（４３）、井上（車回送サポート）

第１日目　１２月２８日（晴）
タイム　　下土狩発４：００－戸台発９：１５－角兵衛沢分岐１１：４０－八丁坂下１２：２８－大平小屋１４：４２－長衛荘１５：０６（泊）
標高差　　上り＝戸台約１０２０ｍ～北沢峠約２０３６ｍ＝約１０１６ｍ（ただ、長い）
　　下り＝　　なし

昨夜、小松さんから電話があり、奥さんが急病で不参加の連絡があった。とても残念だった。実は今回、杉並のＳさんも体調不良で不参加になった。仲間の急な不参加は士気が下がるが平静を努める。

４時、井上・掛橋を拾い、後藤・諏訪部車で出発。駒ヶ岳神社駐車場には簡単に着いた。ここに諏訪部車を置いて、全員で戸台に向かう。中央道に入り、諏訪を過ぎた辺りで、車回送サポートの井上君に運転を代る。車に慣れる為だ。

伊那 IC で降りて、燃料を補給し戸台に向かう。戸台は２０１１年年始にも訪れているので、道は記憶があった。大きな問題はなく戸台の駐車場着。車は３０台くらい。河原の雪は前回より多かった。

荷作りをして井上君の激励を受けて出発。井上君は後のメールで１２時前に駒駐車場に戻った。河原には「登山補導所」があって計画書提出を求めていた。私は事前に伊那警察署に FAX を送ってあった。一昨日は外勤課から「気を付けて行って下さい」と連絡があった。ここで書いている方がいたが、これは心構えが欠けている。ただ、いつも思うのは「補導所」でなく「指導所」のがイイと思いますが・・・。いかにも警察っぽい発想ではないか？？

戸台川河原は雪が多く歩く易かった。前回は雪が少なくゴロゴロ歩きで参ってしまった。八丁坂下まで約３時間。天気は良く暑かった。遥か彼方に甲斐駒が雪煙を上げていた。登山者は多かった。山ガールもいた。登山者の多くはテン泊のザック。山ガールもテン泊だ。元気がイイね～。

角兵衛沢分岐に若い連中が何人かいた。このルートは過去２回上っているが、中々大変なルートだ。赤布を付けた竹竿を持った若い衆が下って来た。「昨日上った？」に、強風で上れなかったとのこと。ここ２～３日天気は悪かったようだ。八丁坂下でアイゼンを着ける。アイゼンを着けるタイミングは諸説あるが、私は上り・下りでなるべく早い時期に着けるようにしている。結局、それが一番安全で速い。つまらない意地を張っても意味はない。八丁坂の上りに掛かった。

戸台駐車場

登山補導所

山ガール

戸台川河原

・・・・・１９６８年１２月３０日～６９年（昭和４４年）１月５日、私の初めての冬山・岩壁登攀は甲斐駒ヶ岳だった。そして噂に名高い、この八丁坂を上っていた。天気は悪く寒く、雪は深く荷物は重く苦闘していた。今から４６年前だから私は２０歳だった。

当時の装備は劣悪で、テント・ヤッケ・オーバーシューズ（靴の上に履く靴カバー）・オーバー手袋はビニロン製で濡れるとバリバリに凍った。シュラフは羽毛など高価なものは揃えられないので、夏用を２個使った。カラビナは鉄製で現在の２倍重かった。ライトは単１電池４本の代物。ザイルは１１ミリで蛇のように太かった。それに食料が加わりザックは３６Ｋｇだった。北沢峠テン場着は１７時を回りうす暗くなっていた。

前年秋、鷲頭山ロックガーデンで岩登りの訓練中、沼津の「北嶺登行会」の 0 村氏に会い会に誘われすぐ入会し冬山合宿に参加した。

参加者は７～８名。甲斐駒・仙丈ヶ岳のピークハント隊と甲斐駒・摩利支天の岩登り隊で編成されていた。私は摩利支天中央壁右ルートと水晶沢隊だった。ちなみにこの記録は、「山と渓谷」の６９年４月号に掲載された。

当時山は、下土狩駅から御殿場線で沼津駅に出て、東海道線で富士駅に向かい、身延線で甲府駅に着き、中央線で岡谷駅に来て、飯田線で伊那北駅下車し、国鉄バスで戸台に至るという、気が遠くなるようなアプローチだった。

ただ寒風の下、伊那北駅に降りると、国鉄バスの方が「熱いお茶を出してくれた」ことを今でも鮮明に覚えている。当時、国鉄職員の方のハートも熱かった。

記録によると、１月２日、O、W、私の三名で、摩利支天中央壁右ルートを上った。BC 発３：００－仙水峠４：３０－南西稜肩６：００－取り付き１０：００－長兵衛バンド１３：００－完了１６：３０－南西稜肩１９：３０－仙水峠２１：００－BC２２：００、天気は大荒れで苦しく激しい登攀だった。そして、この１９６８年年末・６９年年始は、日本各地で山岳遭難が相次いだ年だった。当時、静岡県で先鋭的な登攀活動を展開していた、清水 RCC が剣で遭難したのも、この年だった・・・・・

「昭和４４年１月、剱岳で最悪の大量遭難が発生。15 パーティー81 人が雪山に閉じ込められた。創設わずか 4 年目の山岳警備隊は、芦峅寺の男たちに応援を頼み、山頂付近にいた金沢大学山岳部 17 人の救助に向かった。しかし猛吹雪の中、先頭を切っていたベテランが谷底に転落。芦峅寺の男たちは仲間を救出し、家族のもとに帰すために山を降りた。尾根には 3 人の若き警備隊員が残された。「残された時間はない」若き 3 人は遭難者が待つ山頂に足を踏み出した」

「昭和 44 年１月 11 日、捜索打ち切りとなった剣岳付近で起きた雪崩による相次ぐ遭難事故では５パーティ 18 人が犠牲となった。このうち最大の８人全員の犠牲者を出した東京都の葛飾山岳会は小窓尾根から１月２日に下山予定だったが、奥大日尾根付近で遭難したものと思われた。次いで４人の犠牲者を出した大阪府立大の 13 人のパーティは大明神山の尾根 1000ｍで１人が死亡、そして山頂に取り残された６人のうち３人が死亡した。日比谷高校山岳部ＯＢのパーティは３人全員が昨 12 月 22 日に薬師岳に入山して１月３日までに下山せず、遭

難したものと思われた。清水ＲＣＣの２人は剣岳早月尾根の 2800mの場所から東大谷側に滑落死、電電九州小窓隊の５人は剣岳頂上付近で１月３日、雪崩でテントが潰され１人が死亡した」（関連 HP から）

そんなこんなで、甲斐駒の冬は、その後も十数回上っているが、特に１９６９年は脳裏に焼き付いた忘れられない山行となっている。

大平小屋が見えれば、もうひと上りで北沢峠。ヤレヤレだ。小屋は空いていた。小屋番は前回来たことを覚えていて、名前を呼んでくれた。たいしたものだ。

夕食は１８：００からで時間は十分あるので大いにやってしまった。ビア５００－、日本酒・信濃錦正１合５００－。３名共嫌いではない。私は３０００－位やってしまった。同じテーブルで食事をした若い衆は以前、諏訪部さんと常念小屋で会ったことを覚えていた。また、この方は「大飯クライマー」で、大盛り４杯（朝は３杯）は驚いた。我会のＩ君もそうはいくまい？？！！

その他の記述

１．トイレは水洗。冬山では有難い。
２．同じテーブルの６２歳女性は翌日、仙丈ケ岳に向かった。頑張っているね。
３．小屋は夜でも全く寒くない。
４．長衛荘は、今春から「北沢峠・こもれび山荘」に名称が変わるそうだ。

長衛荘

見事に並んだ信濃錦

飯４杯氏

夕食

小屋番さん

６２歳のお姉さま